

秋子沢遺跡の検出遺構と出土遺物 縄文時代の遺構は調査区の中でも標高の高い北側に集中して見つかりました。遺物が出土した土坑は食糧貯蔵穴を中心とした4基のみです。縄文時代後期初頭～前葉(約4,000年前)のもので、八天遺跡からも同時期の遺物が多数出土しています。

平安時代の遺構は南向きの斜面に集中して見つかりました。竪穴住居跡はいずれも小～中型(一辺の長さが2.5～5m)のもので、焼失家屋が多いのが特徴です。焼土が多くみられることから、土葺きの屋根だったと考えられます。



火災にあった平安時代の竪穴住居跡(南西から)



食糧貯蔵穴使用イメージ

縄文時代の墓坑(北東から)



食糧貯蔵穴から出土した縄文土器



食糧貯蔵穴から出土した縄文土器(1～3)

平安時代の竪穴住居跡から出土した遺物

(4:鉄製紡錘車 5～9:土師器坏 10・11・13:土師器甕 12:土師器羽釜 14:須恵器甕)

令和6年度 北上市発掘調査概要

北上市立埋蔵文化財センター

はじめに

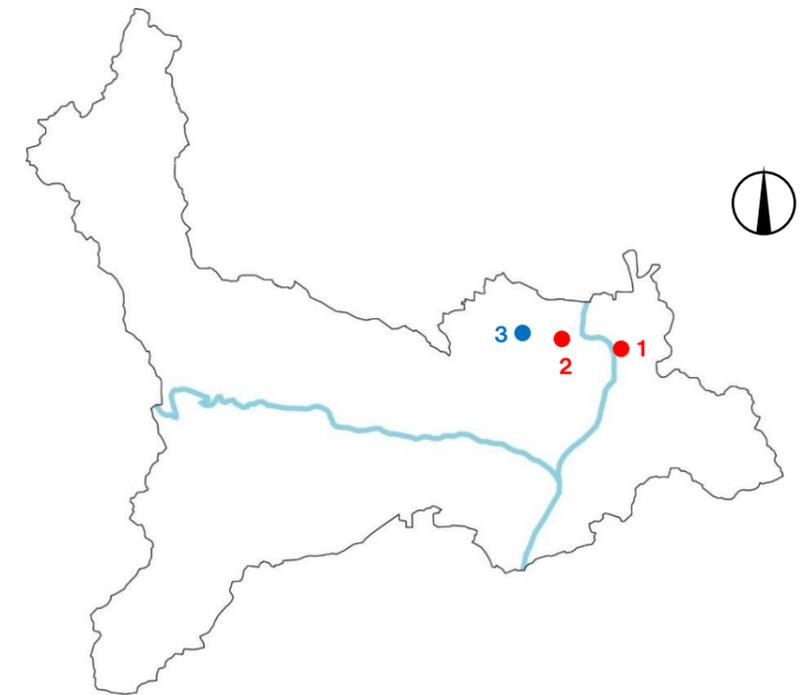
北上市立埋蔵文化財センターでは令和6年度、市内の2地点で発掘調査を行いました。開発により消滅する埋蔵文化財を記録保存するための調査のほか、史跡を保存・活用するための内容確認調査も行っています。また、北部産業業務団地建設のため、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる調査も行われています。発掘調査の成果をご覧頂き、地域の歴史に思いを巡らせて下されれば幸いです。

北上市立埋蔵文化財センター調査

1 八天遺跡(更木) 2 秋子沢遺跡(二子)

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター調査

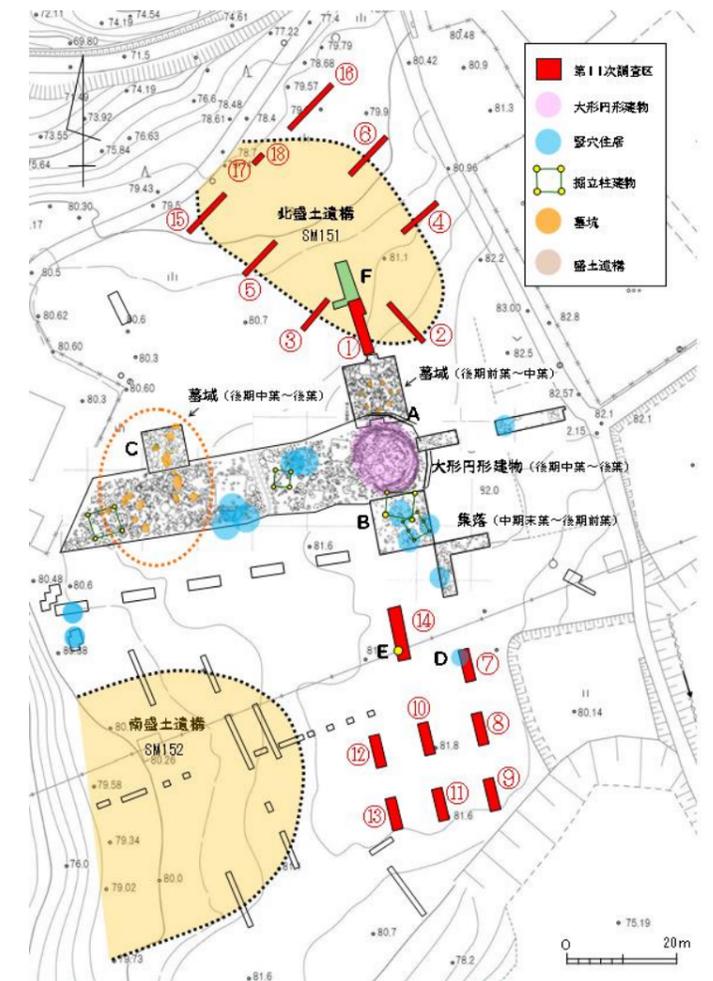
3 岡田遺跡(村崎野)



1 八天遺跡(国指定史跡:更木) —縄文人の死と祈り—

調査期間 6月3日～12月18日 **調査理由** 内容確認 **調査概要** これまでに10次にわたって調査が行われ、8回以上建て替えられた大形円形建物跡と、耳・鼻・口形土製品(重要文化財)などが発見されており、国指定史跡となっています。今回実施した第11次調査は、台地北側緩斜面に分布する北盛土遺構(SM151)の範囲確認と、台地南側高所の遺構内容確認を目的として実施しました。

調査の結果、縄文時代:竪穴住居跡1棟、複式炉1基、地床炉3基、盛土遺構1か所、柱穴(小型1基・大型1基)、落とし穴2基、土坑38基、小ピット162基、平安時代:竪穴住居跡4棟、土坑2基、小ピット3基、中世:城館の内堀1条、外堀1条が見つかりました。縄文時代の竪穴住居跡はこれまでの調査で14棟が確認されています。台地中央の高台から西側にかけて広がっており、北側の緩斜面や台地の南側にはほとんど分布しないことなどが分かってきました。



北上市立埋蔵文化財センター

〒024-0043 岩手県北上市立花 14-62-2 TEL: 0197-65-0098

縄文時代の竪穴住居跡 これまでの調査で見つかった住居跡は浅いものばかりでしたが、今回見つかった竪穴住居跡は掘り込みが深く、しっかりとした壁と床が確認されました。また壁際には周溝が見つかりました。直径約5mの円形で、中央には埋設土器が据え付けられた炉が構築されています。床上からは多くの縄文土器が見つっています。住居廃絶後に捨てられたものと考えられます。



縄文時代中期末葉の竪穴住居跡(東から)

盛土遺構の調査 北盛土遺構 (SM151) は、本来は北に傾斜する谷でしたが、縄文人が土器や石器、炭や焼土等を継続的に廃棄することで形成されたものです。今回の調査では、分布範囲を特定するために複数の調査区を設定しました。その結果、幅25m以上、長さ40m以上の大規模な盛土遺構であることが分かりました。第8次調査(2021年度)で見つかった膨大な量の土器や石器のほとんどは中期末葉～後期前葉(約4,500～4,000年前)のものでしたが、今回調査区⑩で新たに後期中葉(約4,000～3,600年前)の土器がまとまって見つかりました。継続的に遺物が廃棄され、谷が埋め立てられたものと考えられます。また、調査区④からは土偶やスタンプ形などの土製品も多く出土しました。縄文時代の精神文化が伺えます。



SM151 盛土遺構 遺物出土状況(東から)



調査区④から出土した各種土製品

縄文時代後期中葉の柱穴 八天遺跡では直径・深さともに1m以上の大型の柱穴が多数見つっています。柱の痕跡も直径50～60cmほどあり、かなり太いものが多いです。第7～10次調査で見つかった柱穴は出土遺物から縄文時代後期前葉頃(約4,000年前)の遺構であると考えられています。ところが今回見つかった柱穴の柱痕跡からは縄文時代後期中葉(約4,000～3,600年前)の土器が見つかりました。大形円形建物跡が建てられた時期と一致することから、大形円形建物跡と何らかの関係を有する建物又は柱があったと考えられます。



石棒出土状況(中央円形の段差は柱痕跡)



柱穴から出土した遺物(石棒と後期中葉の土器)

平安時代の竪穴住居跡 第11次調査では平安時代の竪穴住居跡が4棟見つかりました。同時期の竪穴住居跡はこれまでの調査により13棟確認されており、台地の全域に分布しています。これらは四角く竪穴を掘った住居跡で、東壁や南壁にカマドが造られています。縄文時代の竪穴住居跡と違い、北側の緩斜面や、南側の台地の縁辺部にも広がっています。



平安時代の竪穴住居跡(北から)

中世館跡の堀と土塁 八天遺跡は、中世には「下欠野館」と呼ばれる館跡でした。和賀氏が北上地域を統治していた時代の城で、外敵の侵入を防ぐための堀や土塁が造られました。第11次調査ではこの館跡の外堀と土塁が再確認されました。



中世館跡の外堀と土塁(西から)

2. 秋子沢遺跡(二子町)

—縄文の狩り場と平安の焼けた家—

調査期間 5月8日～8月19日 **調査理由** 倉庫建設・駐車場造成 **調査概要** 遺跡は二子城跡の南側、北上川西岸の台地上に立地します。1966・1967年に発掘調査が行われ、平安時代の竪穴住居跡16棟が見つかりました。

今回の調査では、縄文時代の土坑12基、平安時代の竪穴住居跡5棟が見つかりました。縄文時代の土坑16基には、墓坑(2基)・落し穴(7基)・食料貯蔵穴(3基)が含まれます。フラスコ形の食料貯蔵穴1基(SK008)の埋土からは、縄文後期前葉の土器が出土しました。埋土には焼土塊・炭化物も混入しており、埋没過程で廃棄土坑に転用されたようです。平安時代の竪穴住居跡のうち3棟(SI010・014・015)は焼失家屋であり、床面からは大量の炭と焼土が出土しました。また、3棟(SI013・014・015)の埋土中から十和田a火山灰(915年噴火)が確認されたことから、これらの竪穴住居跡は9世紀の後半に利用され、10世紀初頭には埋没したと考えられます。



遺構配置図

検出遺構 (SI:竪穴住居跡 SK:土坑)

縄文時代:土坑11基(SK001～009・011・012・017)

平安時代:竪穴住居跡5棟(SI010・013～016)

○・◇:土坑

□:竪穴住居跡